

3 食品ロスの削減に向けた取組みについて

1 はじめに

環境省の調査では、平成 27 年度(2015 年度)に日本全体で年間 2,842 万トンの食品廃棄物が発生し、このうち 646 万トンが食品ロス(まだ食べられる食品が捨てられてしまうこと)として排出されています。これは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた食糧援助量(平成 26 年(2014 年)で年間約 320 万トン)の約 2 倍に相当します。

食品ロスを国民一人あたりに換算すると“お茶碗約 1 杯分”(約 139 グラム)の食べ物が毎日捨てられていることとなります。大切な資源の有効活用や環境負荷への配慮から、食品ロスを減らすことが必要です。

ごみ処理場に持ち込まれた手つかずの食品ごみ



ごみ処理場に持ち込まれた生ごみ



2 くまもと食べ切り運動の展開

本県では熊本県ごみゼロ推進県民会議を設置し、県民の廃棄物に対する意識の啓発を行い、県民・事業者・行政がパートナーシップのもとで、循環型社会の構築に向けて、廃棄物の排出抑制やリユース、リサイクルを推進し、県民の総意を結集した「ごみゼロ県民運動」を展開しています。県民会議では、平成 29 年度(2017 年度)に家庭や事業所などでの食品ロスの削減を主なテーマに掲げ、「くまもと食べ切り運動」を展開し、ポスターやコースターを飲食店に配付して宴会時の食品ロスの削減を進めてきました。

未就学児向け環境教育絵本の制作
未就学児が保育所等で「紙芝居」や「絵本」に触れて学ぶことが多いことに着目し、食べ残しがもったいないということへの気づきを促すために、イラストを用いた絵本を作成しました。子どもが学んだことを家族で話すことにより、家庭で取り組める食品ロスの削減効果も期待しているところです。



3 フードバンク・フードドライブの取組みの支援

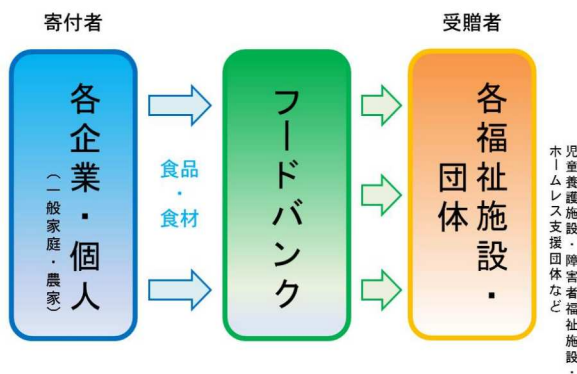
フードバンクとは、家庭や事業所等で保管されている賞味期限が切れる前の食品（例を参照）を集め、生活に困窮する方々などに提供する活動及びこれを行っている団体です。

またフードドライブは、未開封のままで賞味期限が切れる前の食品を集め、フードバンクへ提供する活動です。

県では食品ロス削減を進めていく中で、これらの取組みに着目し、会議を開催する際にフードドライブを実施し、フードバンクへ食べ物を提供しました。

また、県の機関をはじめ、電気事業者や病院などで備蓄されていた防災食糧についても消費期限が到来する前にフードバンクへ提供し、食品ロスの削減にも取り組んだところです。

今後も、様々な機会を捉えてこれらの取組みの周知・広報に努め、食品ロスの削減に取り組むこととしています。



(例) 食品製造工程で発生する規格外品や包装の印字ミス、過剰在庫など、食品衛生上の問題はないが販売が困難な食品。原則として、未開封で賞味期限が1か月以上の食品。

米、餅、菓子類、防災備蓄食品、レトルト食品（カレー・中華の素など）、インスタント食品（ラーメン・スープ・味噌汁など）、乾物（そば・素麺・パスタ・乾燥わかめなど）、調味料（砂糖、塩、ケチャップ、マヨネーズなど）、缶詰（くだもの缶、ツナ缶、ホールトマト缶など）

温度管理が必要な冷凍食品、傷みやすい生鮮食品や弁当、惣菜などは不可

